

# ATHENA-QUICKSIGHT ハンズオン

## 事前準備

Amazon Web Services Japan

第 1 版 2021/03/26 作成, 最終更新 : 2021/3/26

### 目次

本資料について .....	2
事前準備と環境 .....	2
事前確認と QuickSight へのサインアップ .....	4
QuickSight にサインアップする .....	5
使用中の QuickSight キャパシティリージョンを確認する .....	8
補足 : Athena を Glue がリリースされる以前から利用されている環境での確認事項 .....	9

## 本資料について

### 事前準備と環境

本資料は、Amazon Athena Federated Query + Amazon QuickSight ハンズオンに参加する前に読んでいただく準備資料です。ハンズオンを実行するには **AWS のアカウントが必要** になります。まだ AWS アカウントをお持ちでない場合は、以下より登録が可能です。

<https://aws.amazon.com/jp/register-flow/>

ハンズオンは Amazon S3, Amazon Athena, Amazon DynamoDB, Amazon QuickSight, AWS IAM, AWS Glue, AWS CloudFormation で構成されています。 そのため最低限それら进行操作できる権限を持つユーザ（IAM ユーザ）を使用してください。

ハンズオンは少額の費用で実施できるよう設計されていますが、サービスの利用には所定の費用がかかる点にはご注意ください。 費用詳細は以下のホームページでご確認ください。また、ハンズオン記載以外の処理を実施するとその分費用が発生する可能性にご注意ください。

- QuickSight の料金（最初の 1 ユーザ、SPICE 1GB 分までは無料利用枠あり）

<https://aws.amazon.com/jp/quicksight/pricing/>

- Athena の料金

<https://aws.amazon.com/jp/athena/pricing/>

- S3 の料金

<https://aws.amazon.com/jp/s3/pricing/>

- Lambda の料金

<https://aws.amazon.com/jp/lambda/pricing/>

- DynamoDB の料金

<https://aws.amazon.com/jp/dynamodb/pricing/>

- Glue の料金（本ハンズオンではクローラーを一度実行するのみです）

<https://aws.amazon.com/jp/glue/pricing/>

ハンズオンを実行するには、ブラウザ（**Chrome か Firefox の最新版を推奨**）とインターネットに繋がる環境が必要です。ブラウザと QuickSight サービス間の通信は、HTTPS と WebSockets Secure(wss://)を使用しますので、ファイアウォール等で防がれていないかご確認ください。

また、利用ブラウザのプラグイン・アドオンに御注意ください。特に自動翻訳のプラグインが管理コンソールや QuickSight の動作を妨げる事がありますので事前の停止をおすすめします。

## 事前確認と QUICKSIGHT へのサインアップ

ハンズオン開始前に Amazon QuickSight にサインアップしておく必要があります。

QuickSight は、1 ユーザであれば無料で利用できます。Standard Edition と Enterprise Edition から選択できますが、どちらも無料の対象であるため Enterprise Edition の利用を推奨します。（Standard Edition でもハンズオンは実施できます。しかし一部、予測機能等は実施できませんのでご了承ください。）

QuickSight はサインアップ時にリージョンを指定しますが、これをキャパシティリージョンと呼びます。今回のハンズオンではこのキャパシティリージョンと、Athena Federated Query を利用するリージョンを同じにする必要があります。本稿執筆時点では、Athena Federated Query (Athena engine version 2) と QuickSight 両方が提供されるリージョンは以下の通りであり、ご利用中の [QuickSight キャパシティリージョンが以下のリージョンである事を確認](#)する必要があります。（もしくは以下のリージョンを選択して QuickSight をサインアップする必要があります）

[Asia Pacific \(Mumbai\), Asia Pacific \(Seoul\), Asia Pacific \(Singapore\), Asia Pacific \(Sydney\), Asia Pacific \(Tokyo\), Canada \(Central\), Europe \(Frankfurt\), Europe \(Ireland\), Europe \(London\), South America \(São Paulo\), US East \(N. Virginia\), US East \(Ohio\), US West \(Oregon\)](#)

以下のどちらかに沿って準備と確認を進めてください。

1. まだ QuickSight のサインアップをしていない方：この次ページからのサインアップ方法にしたがって、進めてください
2. すでに QuickSight のサインアップをしている方：8 ページに進んでください

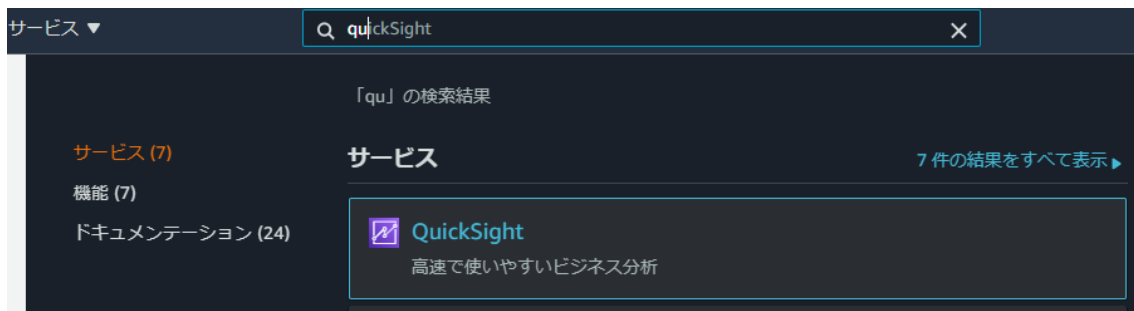
## QUICKSIGHT にサインアップする

まだ QuickSight にサインアップしていない場合は以下に従って、サインアップをしてください。前述のように **リージョンの選択**が注意点です。QuickSight のサインアップ時にキャパシティリージョンを指定するところがありますので、前述のリージョンの中から決めておいてください。

<https://console.aws.amazon.com> にアクセスし、AWS マネジメントコンソールにログインします。

AWS マネジメントコンソールにログインしたら、右上のメニューからリージョンを**本ハンズオン**でご利用したいリージョンに切り替えてください（例：「東京」）。

サービス一覧から **QuickSight** を選択します。上部の検索欄で qu 等と入力すると絞り込まれます。



初めて利用する場合は以下の画面が表示されますので、“**Sign up for QuickSight**”をクリックします。




Your AWS Account is not signed up for QuickSight. Would you like to sign up now?

**AWS Account**

**Sign up for QuickSight**

To access QuickSight with a different account, [log in](#) again.

クリックすると以下のエディション選択の画面が出ます。

右上にある地球アイコン  をクリックして言語を日本語に変更します。

#### QuickSight アカウントの作成

エディション

☐ スタンダード版 ☒ エンタープライズ版

60 日間の無料トライアル (作成者 4 名)*	無料版	無料版
1 か月当たりの作成者の追加 (年単位)**	\$9	\$18
1 か月当たりの作成者の追加 (月単位)**	\$12	\$24
閲覧者の追加 (セッションに応じた課金)	該当なし	\$0.30/セッション (最大 \$5/リーダー/月) ...
1 か月当たりの SPICE の追加	\$0.25 /GB	\$0.38 /GB
SAML または OpenID Connect を使用したシングルサ...	✓	✓
スプレッドシート、データベース、およびビジネス...	✓	✓
プライベート VPC のデータアクセス		✓
行レベルのダッシュボードセキュリティ		✓
保管時のセキュアなデータ暗号化		✓
Active Directory への接続		✓
Active Directory グループの使用 ***		✓
E メールレポートの送信		✓

どちらのエディションでも最初の 1 ユーザ無料で利用できるため、ここでは**エンタープライズ版(Enterprise Edition)**を選択します。なお Standard Edition を選択しても後から Enterprise Edition にアップグレード可能です。選択したら、画面下方にある続行を押します。

☒ Role Based Federation (SSO) (ロールベースのフェデレーション (SSO)) の使用

☐ Active Directory の使用

QuickSight リージョン

リージョンを選択。  
Asia Pacific (Tokyo)

利用するリージョンを選択

QuickSight アカウント名  
QuickSight の固有アカウント名を入力してください  
サインインするには、この情報が必要です。

任意のアカウント名  
(半角英数のみ、他の人と被らない文字列)

通知の E メールアドレス  
myemail@example.com

ご自身のメールアドレス

E メールで招待を有効にする

☒ 新しいユーザーの招待を E メールで許可します。この設定は、サインアップ完了後に変更することはできません。

☒ Amazon Redshift、Amazon RDS、および AWS IAM サービスでデータとユーザーの自動検出を有効にします。

☐ Amazon Athena  
QuickSight から Amazon Athena データベースへのアクセスを有効にする

☐ Amazon S3  
QuickSight での Amazon S3 バケットの自動検出を有効にする

☐ Amazon S3 ストレージ分析  
QuickSight で S3 ストレージ分析データを視覚化できるようにする

☐ AWS IoT Analytics  
QuickSight で IoT Analytics データを視覚化できるようにする

Athenaのチェックは外す

S3 バケットを選択します

完了

この画面では、QuickSight アカウントの設定を行ないます。QuickSight リージョンは事前に決めておいたリージョンを選択してください（※リージョンを Tokyo に切り替えた場合、エディション選択の画面に戻りますが、その場合は選択しなおしてください）

ここで指定したリージョンに、Author ユーザに付属する無料の SPICE 容量が付与されます。


QuickSight アカウント名は任意の名前を付けます（アルファベット、数字、ハイフンのみ利用可能）。他の人とかぶらないユニークな文字列である必要があります。

Notification email address には、ご自身のメールアドレスを入れてください。

加えて上記のように Amazon Athena からはチェックを外し、完了を押してください。少し待つと「Amazon QuickSight に移動する」のボタンが表示されますので、それを押します。これでサインアップ完了です。（AWS マネジメントコンソールに戻るには <https://console.aws.amazon.com/> にアクセスします）

## 使用中の QUICKSIGHT キャパシティリージョンを確認する

QuickSight のサインアップ時にはキャパシティリージョンを指定しますが、そのリージョンと、Athena を利用するリージョンを合わせる必要があります。そのため、ご自身の QuickSight キャパシティリージョンがどこかの確認が必要です。

- 1) AWS 管理コンソールにログインします
- 2) 管理コンソール上部のユーザ ID 表示部分をクリックし、AWS アカウント ID（12 桁の数字）をコピーし、どこかに記録します
- 3) AWS Cloud Shell を起動します（マネジメントコンソール上部にある  より）
- 4) 以下のコマンドを実行し、キャパシティリージョンが表示されます。

```
aws quicksight list-namespaces --aws-account-id $(aws sts get-caller-identity --query Account --output text) --query 'Namespaces[?Name=='default'].CapacityRegion' --output text
```

（例えば画面に ap-northeast-1 と表示されれば東京リージョン、us-east-1 と表示されれば北バージニアリージョンです）

キャパシティリージョンが前述の利用可能リージョンでは無い場合、そのままでは本ハンズオンを実施できません。QuickSight のキャパシティリージョンを変更するには、いったん退会（アンサブスクライブ）して、再度サブスクライブする必要がありますが、**退会すると**

**QuickSight 上で作成したダッシュボード等はすべて削除される点**にご注意ください。

退会が難しい場合でもハンズオン前半の Athena で Federated Query を体験する部分は実施していただく事が可能です。



## 補足：ATHENA を GLUE がリリースされる以前から利用されている環境での確認事項

本ハンズオンでは、Athena から参照するカタログとして、現在の標準的な設定である Glue Data Catalog を利用します。しかし、ご利用のリージョンで Glue が利用可能になる前に Athena を利用されていた場合は、Athena 独自のカタログを利用しており、**本ハンズオンを実施前に Glue Data Catalog への更新が必要**になります。

以下のドキュメントに変更方法が記載されていますので、記載にしたがって更新をしてください。

<https://docs.aws.amazon.com/athena/latest/ug/glue-upgrade.html>